

ヨコハマ版

リユース食器導入の手引き



イベントも「エコ」にシフトしよう



楽しいイベントが終わり…後に残るのは大量のごみ。このごみをなんとか減らせないかと思ったことはありませんか？

正しく分別すれば資源をリサイクルできます。それはとても大切なことです。しかし、ごみを燃やすときはもちろん、リサイクルするときにもエネルギーを使い、CO₂が発生します。

地球にやさしいイベントを目指し、繰り返し使うことでごみを確実に減らせる「リユース食器」にシフトしていきませんか？

目次

はじめに…イベントのごみを減らそう！ リユース食器のススメ …… 2

- ☐ リユース食器って何？
- ☐ リユース食器は本当にエコ？
- ☐ みんなの評判は？
- ☐ リユース食器の導入に向けて

1. 導入の概要をイメージしよう …………… 4

- ☐ リユース食器の種類
- ☐ リユース食器を借りる
- ☐ 費用はどのくらいかかる？
- ☐ 費用の負担は？

2. 運営方法を決めよう …………… 6

- ☐ どこで貸し出して、どこで回収するか
- ☐ その他、こんな方法もあります
- ☐ 来場者へのPR
- ☐ リユース食器を導入したイベントの事例

3. 運営体制を決めよう …………… 9

- ☐ 作業内容と役割分担

(参考) リユース食器 Q&A …………… 10

この手引きは、ヨコハマR(リデュース)委員会のリユース食器プロジェクトチームが、各区の区民まつりやイベントでのリユース食器普及のために作成したものです。

区民まつりの実行委員会等で、リユース食器の利用を検討する際に、参考としていただくことを目的としています。

リユース食器を導入するまでの準備段階から当日の作業まで、具体的にわかりやすく説明しています。

手引きの内容については、リユース食器を導入している区の実行委員会、リユース食器の貸し出し事業を行っている公益財団法人横浜市資源循環公社、NPO法人Waveよこはま等へのヒアリングを中心にまとめたほか、横浜のイベントをエコにするネットワークの「横浜のイベントをエコにするガイドライン09」、環境省の「リユース食器を使ったエコイベント実践マニュアル」などを参考としています。

平成25年3月

ヨコハマR委員会リユース食器プロジェクトチーム



はじめに

イベントのごみを減らそう！ リユース食器のススメ

リユース食器って何？

リユース (reuse) 食器とは、主にイベントで使用されるもので、1回使っただけで捨てられてしまう容器の代わりに使う、繰り返し洗って再使用 (リユース) できる食器のことです。

リユース食器は本当にエコ？

同じ食器を繰り返し使うからごみが減る！

これまでのイベントでは、食べ物などが使い捨て容器で提供されていたため、イベントごみの大部分を使い捨て容器が占めていました。リユース食器を使用することで、大幅なごみの削減につながります。



はじめに

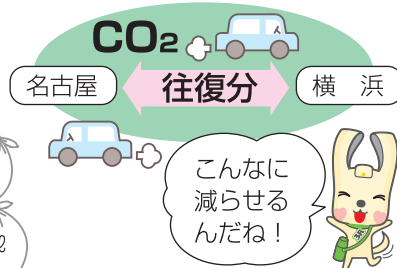
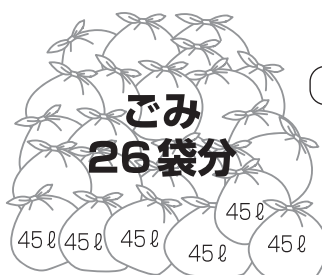
リユース食器を使ったイベントの事例 (保土ケ谷区)

保土ケ谷区では、平成22年度から「ほ도가や区民まつり」でリユース食器を導入しています。平成24年10月20日に県立保土ケ谷公園で開催された区民まつりは、100以上のブースが出店する大規模なもので、カップやどんぶり、おわんなど、計3,150個のリユース食器が利用されました。

リユース食器導入による効果

- 45リットルのごみ袋で約26袋分のごみを削減
 - 温室効果ガスを約100kg削減
- ⇒ 横浜から名古屋まで自動車で行ったときに排出されるCO₂量に相当

※国土交通省「環境・運輸部門における二酸化炭素排出量」に基づき算出

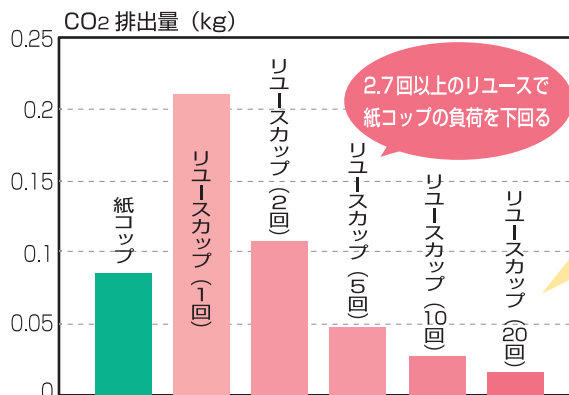


繰り返し使うほどエコ！

リユースカップと使い捨て紙コップの、原料調達から廃棄に至るまでのCO₂排出量を計算すると、2.7回以上の再使用で、CO₂の排出量は使い捨ての紙コップの負荷を下回り、使えば使うほどその差が広がります。

※リユースカップの洗浄による水の使用に伴うCO₂排出量を含めて算出しています。

リユースカップと使い捨て紙コップとの環境負荷の比較



出典：リユース食器ネットワークHP <http://www.reuse-network.jp/>

洗うときの負荷を含めて計算しても、リユース食器はこんなにエコ！

みんなの評判は？

利用者

一般の大型イベントでも、環境への配慮からリユース食器の利用は広がっています。区役所等が参加している区民まつり等においても、率先して環境に配慮することが求められ、また、イベントとしてのイメージアップ効果が期待できます。「神奈川区民まつり」で行ったアンケートでもお客さんからの評価は高く、リユース食器に「全面的に賛成」が79%、「条件付きで賛成」が15%と、賛成意見が94%を占めています。

出店者

出店者へのアンケート調査でも、約7割が「全市に広げていくべきだと思う」と答えています。また、「ほどがや区民まつり」の出店者からも、「しっかりした器だからみなさん大切にしてくれるし、おいしそうに食べてくれる」「また使えるのはすごくいい。使い捨てはやっぱよくない」という声があがっています。

お客さんの声

ごみが少なくなって
とても良いです

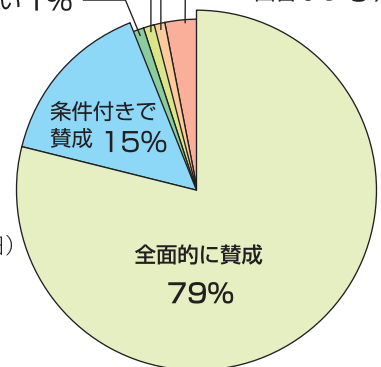
環境のためには、こういう
取組も必要だと思います

継続してがんばって
ください！



問：ごみ減量のためにイベントでリユース食器を使うことについてどう思うか

どちらかといえば反対 1%
全面的に反対 1%
どちらともいえない 1%
回答なし 3%



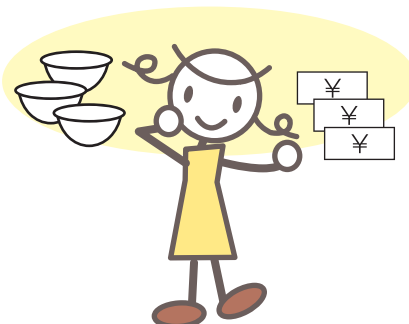
神奈川区民まつり
来場者アンケート
(反町公園)
2012年10月7日(日)
実施 回答者103人

リユース食器の導入に向けて

リユース食器を導入の概要を決めていくために、このマニュアルは以下の流れで説明しています。

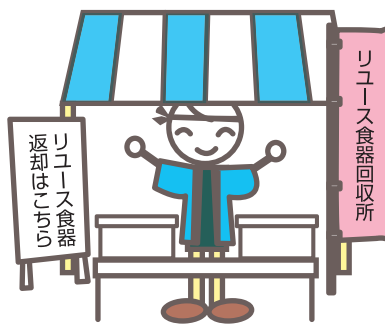
1 導入の概要をイメージしよう

使用する食器や、必要な金額、費用負担などを把握しましょう



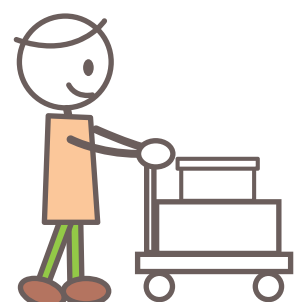
2 運営方法を決めよう

どのように貸して、どのように回収するかを決めましょう。



3 運営体制を決めよう

必要な作業内容を把握し、役割分担を決めましょう。





① 導入の概要をイメージしよう

リユース食器の種類

一般に利用されているリユース食器には、コップ、皿、お碗の他、箸、スプーンなど約15種類あります。出店者の提供する食べ物に合った食器を選ぶことができます。

使い捨て容器では提供しづらい、おでんやラーメンなどの汁が多いメニューも、リユース食器では提供しやすくなります。リユース食器の導入で、提供できるメニューの幅が広がります。



① 導入の概要をイメージしよう

リユース食器を借りる

最も手間がかからないのは、リユース食器をレンタルし、会場で使用したあとは回収してそのままレンタル先に返却する方法です。食器を洗浄する必要はなく、手間は最小限で済みます。

借りて、使って、返却するだけ

借りる → 使用する → 回収する → 返却する

※「公益財団法人横浜市資源循環公社」では、下洗いしてから返却する場合は、割安なレンタル料が適用されます。区民まつりでの部分的な導入や、小規模なイベントで利用されています。

※「NPO 法人 Wave よこはま」は食器洗浄車の貸し出しも行っています。イベント会場で参加者にリユース食器の洗浄を見せることで、環境への「気づき」のきっかけとなる効果が期待できます。

横浜市内で実績のあるリユース食器のレンタル事業者

● 公益財団法人 横浜市資源循環公社（中区）<http://www.shigenkousha.or.jp/index.html>

● NPO 法人 Wave よこはま（青葉区）<http://reuse~wave.sakura.ne.jp/>

その他、「リユース食器ネットワーク」の HP には、全国の団体・事業者が紹介されています。
<http://www.reuse~network.jp/>

● 費用はどのくらいかかる？

レンタルする食器の種類・数量によって費用が決まります。
 当日の販売予定数から、必要数を決めましょう。
 以下は、区民まつりの利用実績から積算した費用の参考モデルです。
※いずれも、回収率95%、使用率90%で試算

例1) 全店舗で、複数の食器を導入：約12万円

※全体店舗数：62店舗、食器類を使用する飲食ブース：10店舗（全10店でリユース食器を使用）
 ※リユース食器レンタル数：5,000個弱
 ※使用するリユース食器：カップ約1,200、どんぶり約1,200、皿約700、箸約1,600

例2) 全店舗で、一部の食器のみ導入

①カップ類のみリユース食器を使用（約1,200個）：各3～4万円
 ②お箸のみリユース食器を使用（約1,500個）：約2万円
 ※例1と同じイベント規模で試算しています。
 ①～②を組み合わせることも可能です。

例3) 一部の店舗のみで導入：約5～6万円

※使用店舗数：3店舗
 ※リユース食器レンタル数：約2,000個
 ※使用するリユース食器：カップ約1,000、どんぶり約500、箸約500

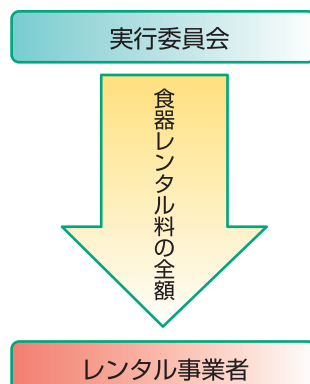


※下洗いしてから返却して、割安なレンタル料金で借りる方法もあります。その場合、費用合計は4～5割程度安くなります。

● 費用の負担は？

区民まつりでのリユース食器導入に伴う費用の負担は、以下のケースが考えられます。

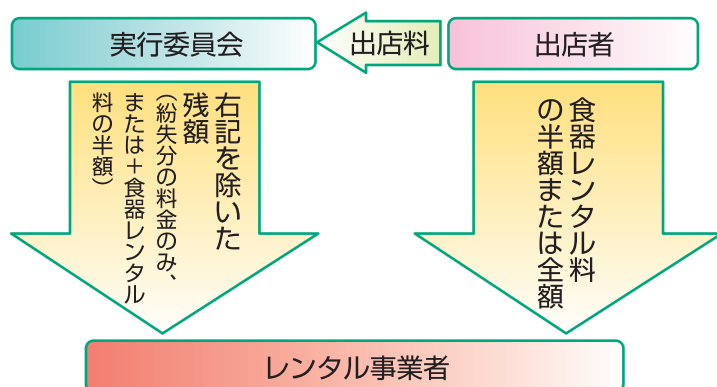
① 実行委員会が負担



上記例の2、3のような部分導入の場合、既存の予算の中から費用を負担している区もあります。

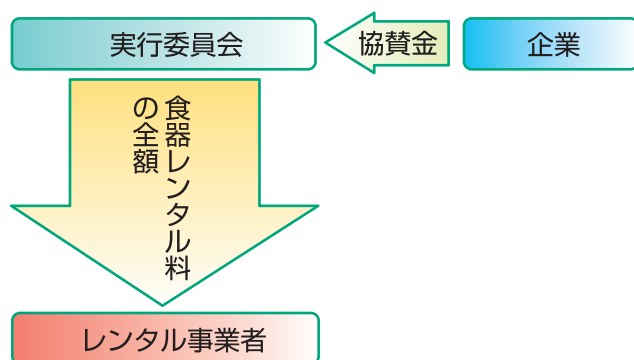


②出店者が負担



市として環境にやさしいイベントの運営に取り組んでいることを出店者に説明して、協力を呼びかけ、食器レンタル代の全額や半額の費用を負担している区もあります（いずれの場合も、紛失分等その他の費用は実行委員会が負担）。

③企業の協賛金を得る



広報やチラシ等でPRを行う際、「この区民まつりのリユース食器は〇〇が提供しています」等の表示を入れることで協賛金を得る方法も考えられます。

② 運営方法を決めよう

② 運営方法を決めよう

リユース食器を導入するときのポイントは、①出店者に協力してもらう、②来場者に協力してもらう、③回収率を高める です。会場の動線やお店の配置などを考慮して、食器の貸し出しと返却の方法を決めます。

● ● ● どこで貸し出して、どこで回収するか

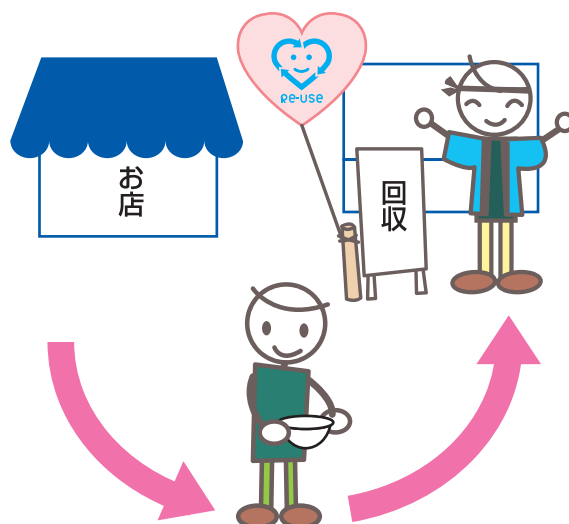
それぞれのお店で貸し出し→エコステーションで回収

最も一般的な方法では、お店で使い捨て容器の代わりにリユース食器に入れて販売します。

また、リユース食器を繰り返し使っていくためには、回収は最も重要です。一般的に、使い終わったリユース食器は、エコステーション（ごみ回収所）など、他のごみと同じ場所で回収します。

○使い捨て容器と同じように扱えるので、出店者も来場者も混乱することは少ない。

○使い捨て容器と間違えて捨てられないように、エコステーション（ごみ回収所）でリユース食器をきちんと回収する工夫が必要。



● その他、こんな方法もあります

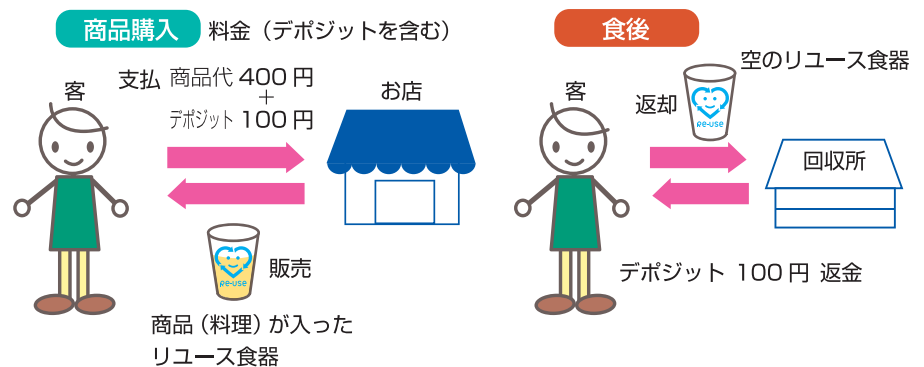
食器貸出所で貸し出す

- リユース食器を使っているよ！というアピール性も高い。
- 貸出所で回収も行えば、管理は楽。
- 一方で、食べたいメニューを入れる食器を確認してから食器を借りていくのはちょっと大変であることや、食器を持たずにお店に来た人には販売できない等、混乱しやすい。



預かり金制度（デポジット制度）

預かり金制度は、回収率を高める仕組みのひとつです。商品購入の際に預かり金（デポジット）を払い、返却時に預かり金を返してもらう制度です。イベント会場への出入口が多い場合などは有効な方法です。



● リユース食器を導入したイベントの事例

デポジット制度を取り入れたイベント

神奈川県民まつり

「神奈川県民まつり」（会場：反町公園）では、環境にやさしい区民まつりを目指し、平成20年度からリユース食器を導入しています。

平成24年度の神奈川県民まつりで使用した食器は、カップ・どんぶり・皿・はし・スプーンなど約8,000個（うちはし・スプーンが約3,500個）で、食器の回収（返却）率は、出入口の多い会場にもかかわらず、ほぼ100%となっています。



リユース食器を返却している様子



デポジットの返金をしている様子

アンケート調査で、お客さんからの評価は高く、リユース食器は「合理的でよいと思う」が75%、「条件付きで賛成」が15%と、約9割の人がデポジット制度に賛成しています。



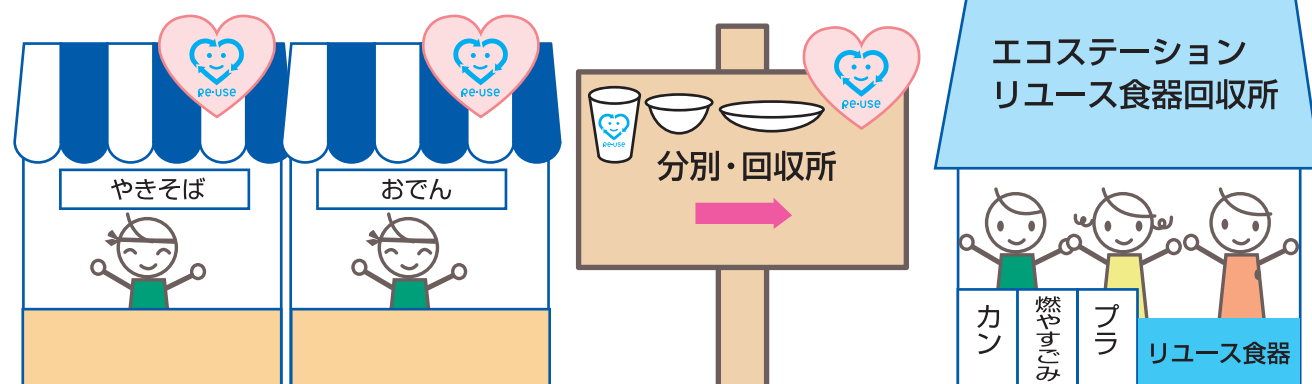
来場者へのPR

リユース食器を利用してイベントを実施すると決めたら、ポスターやチラシを使ってどんどんPRしましょう。「リユース食器を使ったイベント」ということが浸透すれば、リユース食器の貸出や返却の流れがよりスムーズになります。

なお、回収率を高めるためには来場者に回収所が目立つように配置する必要があります。

来場者が会場とまどわないように、案内看板などの適切な配置が重要です。

また、会場内の放送で、来場者に食器の回収の協力を呼びかけることも効果的です。



リユース食器を使っているお店と回収所に同じ目印をつけることで、回収所に誘導しやすくなります。



このマークは、リユース食器ネットワークの会員が使用するリユースカップなどにプリントされています。

※マークの使用にあたっては、リユース食器ネットワークへの確認が必要です。

2 運営方法を決めよう

リユース食器を繰り返し洗って使うイベント

湘南祭

「湘南祭」(会場:茅ヶ崎市サザンビーチ)では、イベント中にリユース食器洗浄車による食器の洗浄を行っており、また、リユース食器を繰り返し使うほど、お客さんが安く飲食ができる仕組みを採用しています。



- リユース食器の貸出所でリユース食器を貸し出す。(1枚150円)
- リユース食器を使用すると、お店で50円引きになる。
- 一度使ったリユース食器を会場内の洗浄車で洗い、再びお店で買おうと、また50円引きになる。
- 最終的に、リユース食器をエコステーションに返却すると100円が戻ってくる。

<“環境に優しいリユース食器” 導入店舗>

**リユース食器のご利用で
湘南祭でのご飲食が
50円割引に！**

環境に優しい湘南祭を目指して！

ゴミを出さない湘南祭を目指し、リユース食器を導入しています。
湘南祭本部テントにてリユース食器(1枚150円)レンタル中！
食器返却時に100円をご返金。(差額50円は運営費に一部)より多くの皆様のご理解ご協力をお願いします。

一部の商品は割引対象外となっておりますので
割引対象商品につきましては各店舗にてご確認ください

③ 運営体制を決めよう

作業内容と役割分担

区民まつりにおいてリユース食器担当が担う、事前の準備段階から当日までの流れをまとめてみました。以下を参考に、役割分担を検討してください。

事前準備	● 出店者説明会における、出店者へのリユース食器に関する説明 ● 出店者からの使用枚数のとりまとめ～レンタル先との交渉、手配 ● 回収所案内看板等の準備 ● イベントチラシ等での広報	よりわかりやすい案内が、回収率のアップにつながります。なお、レンタル事業者が提供する看板等も利用できます。 来場者に事前にPRすることで、スムーズな利用を目指します。
直前準備	● 回収所の設営（回収ボックス、食べ残し入れ等）→既存のエコステーションの中に併設する 경우가ほとんどです。 ● 回収所案内看板等の設置 ● 出店者ごとの食器数の仕分け	レンタル事業者に依頼することも可能です。
当日	● 出店者への食器配布 ● 回収所の運営	各店舗に本部まで取りに来てもらう区もあります。 既存のエコステーションに併設し、環境事業推進委員や資源循環局の事務所が担当したり、青少年指導員等に依頼している区もあります。

また、大学生ボランティアの協力を得ているイベントもあります。地域の環境団体や大学の環境サークルなど、広くボランティアを募る方法も考えられます。

「かながわ湊フェスタ」で活躍する大学生スタッフ





（参考）リユース食器 Q&A

Q 衛生面は大丈夫？

A リユース食器は繰り返し使うことから、きちんとした衛生管理が必要です。

リユース食器の貸出を行う団体等では、既存の食品衛生に関するマニュアルや保健所の指導を参考に、洗浄・保管方法を定め、衛生管理に取り組んでいます。また、洗浄後の残留物及び細菌検査を実施することで、衛生的に管理されていることを確認しています。



Q 回収率アップのための工夫は？

A 保土ケ谷区では、平成22年度から「ほどがや区民まつり」でリユース食器を導入していますが、会場が広いオープンスペースとなっていることから、食器の回収を高めるため、平成24年度は公益財団法人横浜市資源循環公社と連携して食器に「必ず返却」というメッセージが書かれたシールを貼付したところ、食器の回収率は前年比で約10%改善しました。



Q 持ち帰りへの対応はどうするの？

A 食べ物を持ち帰る場合には、使い捨ての容器で提供するなど、リユース食器と使い捨て容器の両方を使い分けているイベントもあります。

なお、リユース食器だけでなく、持参した食器や容器を使えるイベントもあります。自宅から容器を持参してもらえると、一番いいですね。（例：アースデイ東京2012にて）



各店舗で、マイ食器が使えます。



カップとスプーンをレンタル。容器は持参したもので。

Q 素材は何でできているの？

A リユース食器は、割れにくく洗浄しやすいことなどから、プラスチック製の食器が使われています。素材としてはポリプロピレン（PP）が多く使われており、その他、ペン樹脂やメラミンのものがあります。PPは、耐冷・耐熱性にすぐれ（-20℃～120℃）、耐久性がある素材です。

Q リユース食器の利用は、広がっているの？

A リユース食器は、90年代の半ば頃から、大学の学園祭やNPO、NGOの活動が先導して広がってきました。その後、サッカースタジアムや大規模なイベントで導入されるようになり、今では全国でリユース食器を利用する運動が広がっています。

2005年3月に、リユース食器の普及に取り組む全国の団体が集まって「リユース食器ネットワーク」（事務局：財団法人 地球・人間環境フォーラム）が組織されています。横浜市内では、公益財団法人横浜市資源循環公社とNPO法人Waveよこはまが参加しています。

③ 運営体制を決めよう

（参考）リユース食器 Q&A

新たな取組の実現をサポート！

リデュース

ヨコハマR委員会

「新しいリデュースの取組アイディアは浮かんだけど、自分だけで実現するのは少し難しそうだなあ…」そんな時はぜひ、ご相談ください。

市民・事業者・行政の3者で構成する委員会が、リデュースに関するご提案やご相談を受け、情報提供、広報、協力者の紹介などを行い、「こんなことできたらいいな！」の実現をお手伝いします。

ご提案・ご相談は、ウェブサイトまたは事務局へ

『リデュース』
ってなに？

使い捨てをやめて、
くりかえし大切に使い回して、
ごみそのものを減らす
取組だよ！



提案・相談



支援を検討



スリーアール
ごみ減量のキーワード「3R」について、もっと知りたいと思ったら…

「ヨコハマRひろば」ウェブサイトへ！

Rひろば 検索



リデュース食器導入の手引き

発行：横浜市資源循環局

編集：ヨコハマR委員会リデュース食器プロジェクトチーム

大川 哲郎（横浜のイベントをエコにするネットワーク）

戸川 孝則（横浜市資源リサイクル事業協同組合）

原田 雄一（公益財団法人 横浜市資源循環公社）

山本 耕平（横浜プランナーズネットワーク）

お問い合わせ：ヨコハマR委員会事務局
横浜市資源循環局 3R推進課

TEL045-671-2530 FAX045-663-5834

E-mail:sj-reduce@city.yokohama.jp

デザイン・編集：企業組合 エコ・アド 平成25年3月